

目 次

本書の刊行に寄せて
はしがき

第 I 部 保護観察総論

第 1 章 保護観察とは	今福 章二
1 はじめに	002
2 保護観察の目的	003
3 保護観察の基本的前提と処遇構造	004
4 保護観察付執行猶予制度の成立と発展	009
5 保護観察付執行猶予者の保護観察実務	011
6 保護観察の適合性	021
7 おわりに	024
第 2 章 刑の一部執行猶予と保護観察	新井 吐夢
1 はじめに	027
2 刑の一部の執行猶予制度	027
3 刑法による一部執行猶予の期間中保護観察に付すべき者の選別	031
4 薬物法の対象者について	038
5 刑事捜査公判の運営の在り方	039
6 おわりに	041

第3章 保護観察の処遇効果

岡田 和也

1	はじめに	044
2	保護観察の処遇効果とは何か	044
3	そもそも保護観察に効果があるのか	047
4	どのようなタイプの対象者に処遇効果があるのか	049
5	どのような処遇に効果があるのか	051
6	処遇効果をもたらす保護観察実施体制は何か	053
7	おわりに	053

第4章 世界の保護観察の動向

小長井賀與

1	はじめに	057
2	保護観察の起源	058
3	保護観察の現在の構造	059
4	保護観察処遇の変遷	064
5	保護観察処遇の主要概念	068
6	諸外国の保護観察の動向と日本の保護観察の特徴	075

第Ⅱ部 保護観察処遇の現状

第5章 統計で見る保護観察

前川 洋平

——保護観察付執行猶予を中心に

1	全国統計から見た保護観察付執行猶予の状況	084
2	保護観察付執行猶予者の処遇効果に関する特別調査	093
3	おわりに	099

第6章 薬物依存からの回復のための保護観察処遇

田島佳代子

1	薬物事犯者に対する保護観察処遇	100
2	薬物処遇の新たな取組み	101
3	今後の課題	108

第7章 薬物依存の理解と処遇の現状 和田 清

1 はじめに	114
2 薬物の乱用, 依存, 中毒とは	114
3 薬物依存症者の処遇の現状	120
4 おわりに	123

第8章 薬物依存者回復施設との共働 宮永 耕
——地域における支援とダルク

1 はじめに	125
2 ダルクとは何か	126
3 ダルクの回復プログラム	128
4 ダルクの運営	130
5 ダルクとNA	134
6 ダルク利用者の現状	136
7 おわりに	138

第9章 専門的処遇プログラムと保護観察 勝田 聡

1 保護観察処遇の緩やかな枠組み	140
2 保護観察対象者の動機づけ	141
3 専門的処遇プログラム	143
4 性犯罪者処遇プログラム	145
5 覚せい剤事犯者処遇プログラム	146
6 暴力防止プログラム	148
7 飲酒運転防止プログラム	150
8 おわりに	151

第10章 立ち直りを支える保護観察 鈴木美香子

1 はじめに	154
2 再犯防止に関する最近の動き	155
3 保護観察の枠組みの中での福祉「的」施策	164

4 おわりに	165
--------------	-----

第Ⅲ部 事例で見る保護観察処遇

第11章 薬物事犯者に対する処遇① 里見 有功 ——集団プログラムの活用事例

1 はじめに	168
2 覚せい剤事犯者処遇プログラムの集団実施について	168
3 事例紹介	172
4 事例に関する考察	177
5 保護観察所における集団プログラムの意義と課題	179

第12章 薬物事犯者に対する処遇② 西江 尚人 ——ダルクや医療とかかわった事例

1 はじめに	181
2 事例の検討	182
3 おわりに	190

第13章 薬物事犯者に対する処遇③ 岡本 泰弘 ——更生保護施設の活用事例

1 更生保護施設とは何か	192
2 更生保護施設における薬物事犯者に対する処遇	193
3 事例検討	197

第14章 性犯罪者に対する処遇 小森 典子

1 はじめに	204
2 性犯罪者処遇プログラム	204
3 事例紹介	208
4 おわりに	217

第15章 窃盗事犯に対する処遇

前川洋平・西平俊秀

- 1 はじめに 218
- 2 事例紹介 219

第16章 未熟な若年者に対する処遇

牧山夕子

- 1 若年犯罪者について——若年犯罪者の定義・犯罪傾向 229
- 2 保護観察事例 230
- 3 おわりに 239

第17章 知的障害者と保護観察処遇

坂根 真理

- 1 はじめに 242
- 2 事例紹介 243
- 3 おわりに 252

あとがき

索引